

## 専門部会（第4回）の意見概要

## 1 人が輝くいばらきづくり専門部会（第4回）

日時：平成27年10月5日（月） 午前10時～12時  
場所：茨城県薬剤師会館 3階大会議室  
出席者：委員 12名ほか

## 【主な委員意見の概要】

## （1）政策展開の基本方向について

- ・主権者教育は国でも検討中で、幅を持たせた記載方法になると思われるが、取組に入れてもらいたい。
- ・目的が重なる部分も多いため、国体の取組に併せて、東京オリンピック等への取組も入れるべき。
- ・東京オリンピック等に併せて実施される文化プログラムについても、取組に入れるべき。
- ・芸術施策をマネジメントする人材の育成などの取組を入れるべき。
- ・常総市の災害現場では、避難所などにおいて、女性の目線が活躍した。そのような取組も施策に入れるべき。

## （2）数値目標について

- ・若者の就労関係の指標を入れるべき。
- ・施策と比較すると指標のバランスが偏っている。
- ・芸術振興の部分では、市町村との連携が欠かせないため、各主体に期待する役割の市町村の役割に、「県や地域での芸術イベントへの協力」を入れるべき。
- ・科学分野でも、人口減少の影響が大きい。女性の理系進学率を数値目標に入れてもらいたい。
- ・数値目標は「本を好きか」や「茨城県を好きか」など県民に分かりやすい指標があっても良い。
- ・「生徒の自己実現」は道德の指標というよりは生きる力の指標である。その代替となる道德関係の指標を入れてもらいたい。

## （3）重点プロジェクトについて

- ・プロジェクト12本は多いと感じる。大きいテーマにして絞ることを検討してもらいたい。大事なことは政策展開のところに書いてあるので、プロジェクトは見せ方を意識してもらいたい。
- ・県北創造プロジェクトの名称は、新しくつくるトーンではなく、今あるものを活かしてつくっていくことが伝わるような名称に変えてもらいたい。
- ・政策展開の基本方向における地域づくり人材の育成や歴史、文化の共有、県北芸術祭の開催などは県北地域のプロジェクトでは特に重要なものと位置づけてもらいたい。

## 2 活力あるいばらきづくり専門部会（第4回）

日時：平成27年10月6日（火） 午前10時～12時  
場所：茨城県薬剤師会館 3階大会議室  
出席者：委員 15名ほか

### 【主な委員意見の概要】

#### （1）政策展開の基本方向について

- ・中小企業の海外展開について2050年を見据えた場合、アジアだけでなく世界的な視野で考える必要があるのではないか。
- ・施策名「今と未来の産業を担う人づくりとイノベーションネットワークの活性化」について、これからの計画であるから「今」は必要ないのでは。
- ・ベンチャー企業の創出など、誰もが個性や能力を發揮しながら主体的に頑張るための取組をもう少し出せると良いのでは。
- ・農業についてこれからは輸出産業にする取組を明確に出せるのではないか。
- ・農業も観光資源として活用するような言い方が入ると良い。
- ・安全・安心な農産物を供給するため、G G A Pにも適合する取組を入れるべき。
- ・現況と課題、将来像にT P Pの状況を加えてはどうか。
- ・多くの産業の基盤となる県内通信事業者の起業・育成と、I T産業の活性化に繋がる、既存通信インフラを活用した東京と同程度の通信環境整備を加えてほしい。
- ・中小企業対策において、新技術の開発だけでなく、既存技術を連携しさらに伸ばすような取組を入れてほしい。
- ・若者だけでなく、中高年のU I Jターンへの取組も入れてはどうか。
- ・マイナンバー制度の活用とともにセキュリティ対策も記載すべき。
- ・農業関係で県を挙げて一本化したイメージのもとでブランディングを行うため、パッケージデザインを統一できるとよい。
- ・交流だけでなく、連携や協働という言葉を重ね合せ、地域のために貢献する意味合いを出せると良い。

#### （2）数値目標について

- ・東京都中央卸売市場における県産青果物シェアは%ではなく、茨城県が全国でダントツ1位であることを示す方が、県民が誇りを感じられるのではないか。
- ・農業産出額だけでなく、農家1人当たりの生産性や耕作面積1ha当たりの売上高などで考える方が、今まで通りのやり方を見直すことに繋がるのではないか。
- ・工場立地件数や工場立地面積の数値ではなく、その数値が全国1位であることを示す方が県民にとって誇らしいのではないか。
- ・参考にマイナスの数値を入れられると良い。現在あるものを支えることも重要であるため、新規企業と廃業企業の差引などを記載するとその状況が見える。
- ・農業における生産管理などソフト的な取組に関する数値目標があるとよい。

#### （3）重点プロジェクトについて

- ・リーダー、サブリーダーなどを記載し、庁内の推進体制を明確にしてはどうか。
- ・健康長寿は、高齢者に限定せず若い人も含めてすべての人に関係するもの。
- ・県北国際アートフェスティバルや東京オリンピックなどのイベントをやって終わりにならないような検討をお願いしたい。
- ・グローバル化について、すでに茨城県に在住している外国人に対する対応が不十分な状況であり、そこを意識した基盤づくりが必要。
- ・人口減少と労働力不足を考えると、高齢者が活躍する、社会に貢献するという社会システムを考える必要がある。

### 3 住みよいいばらきづくり専門部会（第4回）

日時	： 平成27年10月9日（金） 午前10時～正午
場所	： 茨城県開発公社ビル 4-H会議室
出席者	： 委員 11名ほか

#### 【主な委員意見の概要】

##### （1）政策展開の基本方向について

- ・認知症高齢者の運転が問題になってきており、代替となる交通手段が必要。
- ・免許返納者に対する支援について、市町村独自の取組もあると思うので、「各主体に期待する役割」の中で市町村に係る記載を加えてはどうか。
- ・施策名「障害者への生活支援の充実」については、他の施策名に多く使われている「安心」の文言を追加した方が良い。
- ・バリアフリーについては、高齢者や障害者などのニーズを的確に把握し、必要とされる施策を過不足無く計画することが最も重要。
- ・厚生労働省が掲げる互助の大切さも、どこかに位置づけておくべきではないか。
- ・災害対策について、県と市町村が一体となって検討する場を作り、より専門的な観点から災害に対する対応を議論する場が必要ではないか。
- ・現行のハザードマップでは災害状況全体のイメージがつかみにくいため、市町村境界を意識させない形での再構築が必要ではないか。
- ・災害時のボランティアセンターの運営について、県主導による官民協働の運営体制を整備してはどうか。
- ・災害時の対応をマネジメントできる人を育てていくことが非常に大事。
- ・犯罪対策において、定住外国人に防犯活動に参加してもらうなど、普段からの協力関係が必要。
- ・施策名「霞ヶ浦・涸沼など湖沼環境の保全と活用」には、「森林」、「林業」に係る用語を入れても良いのではないか。

##### （2）数値目標について

- ・介護業務に従事する人材の確保状況を示す指標として「介護職員数」とあるが、「充足率」とした方が良いのではないか。
- ・地域社会活動の取組状況を示す指標として「NPO法人数」とあるが、継続して活動している法人数を指標としてはどうか。
- ・ハザードマップの認知状況を数値目標として入れてはどうか。
- ・地球温暖化対策に係る指標として、「自然エネルギーの導入率」や、「環境マネジメントに関する事業者数」などが考えられるのではないか。
- ・生活交通環境の整備状況を示す指標として、地域公共交通確保維持改善事業に定義されている「交通不便地域の人口」のようなものが考えられるのではないか。

##### （3）重点プロジェクトについて

- ・プロジェクトの名称「高齢者いきいき健康長寿社会づくり」は、「高齢者」の記載を削り、「いきいき健康長寿社会づくり」としてはどうか。